

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

| | | | |
|---------|-----------------|------------|----------|
| 事業所番号 | 4290700030 | | |
| 法人名 | 有限会社 オレンジケア | | |
| 事業所名 | グループホーム おれんじ友 | | |
| 所在地 | 長崎県平戸市大島村2742-1 | | |
| 自己評価作成日 | 令和2年10月14日 | 評価結果市町村受理日 | 令和3年2月8日 |

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

| | |
|----------|---|
| 基本情報リンク先 | http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/42/index.php |
|----------|---|

【評価機関概要(評価機関記入)】

| | | | |
|-------|---------------------------|--|--|
| 評価機関名 | 特定非営利活動法人 ローカルネット日本評価支援機構 | | |
| 所在地 | 長崎県島原市南柏野町3118-1 | | |
| 訪問調査日 | 令和2年11月25日 | | |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

| |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ・困っている利用者ご家族の要望に応えられる事業所であること。 ・家族が大切な家族を安心して預けられる施設であること。 ・入居者に「ここがよかつた」と思ってもらえる施設であること ・誰もがまた来なくなる施設であること。 |
|---|

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

| |
|---|
| <p>当ホームは平戸港からフェリーで40分程度の釣り人にも人気の山大島(あづちおおしま)の一角に立地し、島内で唯一のグループホームとして共同生活を送っている。入居者及び職員がともに地元の島民出身者であり、入居者の親族や友人、知人、関係先といった情報を詳細に把握し、入居者の性格を熟知することで職員との深い信頼関係を築いている。地域の祭りに職員と一緒に制作した作品を展示したり、ホームに設置しているAEDを地域住民にも使用できるようにするなど、ホームが地域に根ざした事業所として島民の拠り所となるよう取り組んでいる。代表者のホームに対する思い入れも強く、痒いところに手が届くような配慮が行き届いた入居者支援を行いたいとの思いで支援に努めている。現在、市役所支所・桝橋・郵便局・農協に広報誌を配布し、全島民へホームを周知することで認知症への理解に繋げている。介護計画書は入居者本人・家族の意向を尊重し、細やかな評価項目に基づいた検討会を行うことで本人を尊重した支援に繋げており、今後も入居者への支援に期待が持てるホームである。</p> |
|---|

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| 項目 | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | 項目 | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 |
|----|--|----|---|
| 56 | 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) | 63 | 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) |
| 57 | 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) | 64 | 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) |
| 58 | 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) | 65 | 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) |
| 59 | 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) | 66 | 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) |
| 60 | 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) | 67 | 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う |
| 61 | 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) | 68 | 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う |
| 62 | 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28) | | |

自己評価および外部評価結果

ユニット名 A

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|--------------------|-----|---|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| I. 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1 | (1) | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | ・事業所理念と職員研修、会議等において周知している。 | ホーム長の手書きによる理念を常に目に付くリビングに貼紙することで職員間で理念に対する意識の再確認を行うとともに、現場主義を貫き、ホーム長が気付いた点はその場で指導している。職員はそれぞれ①誕生日・レクリエーション活動②ヒヤリハット③消防④調理の担当に就き、年度目標を立てて毎月振り返りを行っている。 | |
| 2 | (2) | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | ・地域の行事に合わせた行事計画を立てて実施している。 | 地区の祭りに入居者と職員が一緒に制作した作品を展示し、入居者数名とともに見物に出掛けることで入居者の楽しみへと繋げている。コロナ禍により地域との交流は困難であるが、これまでの地域の催しへの参加や交流を地元中学生の創作ダンスのDVD鑑賞することに変更し、入居者親族の演技などを楽しんでいる。ホームにはAEDを設置しており、地域住民にも貸し出している。 | |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | ・推進員会において施設状況の報告をしたり広報誌を作成し、地域にお知らせしている。 | | |
| 4 | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | ・情報の収集をし、活用、実践につなげられることは実践している。 | コロナ禍により運営推進会議は書面による会議に変更し、議題毎に意見・要望が記入できる用紙を会議案内状とともに構成メンバーへ郵送し、意見を求めている。直近の会議には行政担当者・消防署・民生委員・社会福祉協議会職員・家族代表・ホーム代表・ホーム長が参加し、現状報告、ヒヤリハット報告等を行い活発な意見交換ができています。 | |
| 5 | (4) | ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる | ・取り組んでいる。 | ホーム裏の雨水流入に関する事案について市長寿介護課へ相談し、行政各部門や関係先との話し合いの機会を作ってもらうなど良好な関係を築いている。また、市の高齢者生活福祉センター居住施設利用者が円滑に当ホームへ入居できるよう連携した取り組みを行っている。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|-----|---|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 6 | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | ・身体拘束についての理解を深めるため研修会を実施。 | ホームでは身体拘束廃止に係る指針及び身体拘束のマニュアルを整備している。3か月に一度、診療所医師を含めた構成メンバー7名で身体拘束廃止検討委員会を開催するとともに、毎月の職員会議で必要に応じて身体拘束や虐待に関する勉強会を行っている。当日会議を欠席した職員には会議録を配布している。 | |
| 7 | | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | ・研修会の実施により、職員皆が共通の理解のもとに正しく対応できるよう努めている。 | | |
| 8 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | ・社外研修参加し、報告会を実施している。 | | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | ・施設入所時は説明の時間をとり納得していただいたうえで契約締結をしている。 | | |
| 10 | (6) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | ・玄関に意見箱を設置。また、施設訪問面会の折、時間をとり意見を聴くようにしている。 | 前回の外部評価で実施した家族アンケート結果によりホームの支援内容が家族に十分に伝わっていないことが判明したことを受け、ホームの一日の流れを時間軸でフロアに掲示し、入居者がどのような一日を送っているかを家族等に明確に伝えるよう工夫を講じた。現在はコロナ禍のため入居者との面会を制限しており、家族等へ電話で意見を聴いている。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------|-----|--|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 11 | (7) | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | 毎月のミーティング時に職員の意見を聴くようにしている。 | ホームでは申し送りや職員会議を通じ、職員間での意見交換を行っている。現場での気付きはその都度ホーム長へ伝え、入居者の能力低下に伴う微細な支援内容の手直しや清潔な環境を作るための自発的な掃除の徹底など、すぐに実現可能な提案は速やかに実行している。 | |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | 資格取得のための支援をし、取得後は給与に反映している。 | | |
| 13 | | ○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | ・施設代表者や管理者は職員のリフレッシュのため、町内の球技大会への参加を支援している。 | | |
| 14 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | ・法人として、全体研修の及びレクレーションの計画により、交流している。 | | |
| Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | ・認知症である利用者の「思いを知る」ため、利用者とのコミュニケーションをとる時間をできるだけ作るよう心掛けている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|-----|---|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | 家族と利用者の関係性を知ること、しっかりとアセスメントを心掛けている。 | | |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | ・本人及び家族にとって必要な支援を知る上においてゆっくりと話を聞く場を設けるように努めている。 | | |
| 18 | | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | グループホーム本来の考えを忘れず利用者とともに暮らすという思いを持つようにしている。 | | |
| 19 | | ○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | グループホームは利用者及び家族とともにあることを忘れないようにしている。 | | |
| 20 | (8) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている | ・施設訪問がしやすい環境を作ることまた、住み慣れたご近所さんまでドライブをするなど支援している。 | 入居者全員が地元の島民出身者であることから地域性もあり、関係先・友人・知人等の情報は十分に収集できている。入居者に関する新しい情報は個人記録に残しており、学校での運動会見物や島内ドライブなど、収集した情報をもとに関係継続の支援に繋げている。コロナ禍による影響で、現在家族とは窓越しに面会している。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------------|-----|---|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 21 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず に利用者同士が関わり合い、支え合えるような 支援に努めている | 利用者同士衝突がないように、職員が様子観 察し、必要な時は間に入るようにしている。 | | |
| 22 | | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関 係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族 の経過をフォローし、相談や支援に努めている | 再入所可能であることを説明しながら対応し ている。 | | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 23 | (9) | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握 に努めている。困難な場合は、本人本位に検討し ている | アセスメントをして本人の思いを聞き取り支援 をしている。 | 家族がホームへ訪問した際に家族の意向を聴 取していたが、現在はコロナ禍により面会が困 難となっていることから電話にて家族の意向を 確認している。職員は入居者個々に応じた支 援時の声掛けを工夫することで、できる限り本 人の意向を汲み取るよう努めている。ホームで は毎月6項目による入居者の状態調査票を作 成し、入居者の状態確認と職員間の共有を 図っている。 | |
| 24 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環 境、これまでのサービス利用の経過等の把握に 努めている | 〃 | | |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する 力等の現状の把握に努めている | 〃 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 26 | (10) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | ミーティングの中で職員間の意識確認をし、支援に反映させている。 | ケアプランの目標達成度合いを検討するためのモニタリングは、ホーム代表がインターネットを活用して行った後ホーム長が再アセスメントし、6か月毎にプラン内容を見直している。また、必要に応じて診療所の医師等に意見を仰ぎ、ケアプランに反映している。ホームではケアプランで設定した目標の実施状況が一目で確認できるよう記録様式を工夫している。 | |
| 27 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | モニタリングの中で課題を見つけ支援につなげている。 | | |
| 28 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | 本人の状態、家族の状況に合わせて対応するように心がけている。 | | |
| 29 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | 島の暮らし慣れ親しんでこられた方々であり、島の行事に関心もあられるので、できる形での参加をしている。 | | |
| 30 | (11) | ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 定期受診に支援はもちろん、体調異変時には相談をし、支持を受けながら支援をしている。 | 緊急時以外の診療所及び歯科などの受診にはホームの看護師が同行支援を行っており、必要に応じて入居者の状態記録を持参している。専門医への受診については医療機関が島外にあるため家族に同行を依頼しているが、家族の事情により職員が医師の紹介状を持参し同行する場合もある。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|--|--|--|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 31 | | ○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 日々の状態観察記録を通し、異変時の早期受診につなげている。 | | |
| 32 | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている | 入院時は、病院へ状況説明をし、入院中にも病院へ連絡し、状態把握に努めている。 | | |
| 33 | (12) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | 家族の意向を重視しともに話し合い、できる限りの支援をしている。 | ホームでは看取り指針を作成し入居者への看取り支援を行う意向であるが、現在、医療連携体制面で十分な支援体制が整っておらず、入居者への医療行為が発生時点で医師・家族を交えたケア会議を行い、今後の方向性を決定している。家族にはその時点で同意書を得ている。 | 現在、入居契約時に看取りに関するホームの方針を口頭で説明している。入居者本人及び家族へホームができる具体的な看取り介護の内容を入居時に書面で説明するとともに、本人・家族への事前の意思確認による理解・同意を得ることが望ましい。 |
| 34 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | 緊急時の対応マニュアルに沿って職員研修会において学び実践で生かせるように努めている。 | | |
| 35 | (13) | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている | 毎月避難訓練を実施。 | ホームでは毎月避難訓練を実施しており、風水害を想定した訓練も行っている。有事における職員の役割分担について、職員が出勤した際にホワイトボード上の役割欄に職員ネームのプレートを置くことで自身の役割を確認するとともに、職員間の認識を深めている。備蓄の管理は専属職員が在庫と消費期限の管理を行っている。 | 避難訓練について、例えば避難に要した時間や訓練参加者、消防署からの総評、職員の反省点、訓練時の写真など詳細に記録することで災害への取り組み状況を家族等へ説明する際に活かしたり、訓練の改善に繋げたりするなど、今後の取り組みに期待する。 |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------------|------|--|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 36 | (14) | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | 介護理念のもと実践している。 | 職員は居室へ入室する際、ノックと声掛けを行ってから入室している。入居者への言葉掛けの際には苗字にさん付けの呼称であるが、状況に応じて愛称も使用している。個人の情報が特定できる各種の紙媒体によるメモ類はシュレッダーで裁断破棄している。 | |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | 表情に気を付け、コミュニケーションをとるようにしている。 | | |
| 38 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 職員のための日課とならないように十分気をつけながら支援をするように心がけている。 | | |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | 特に、入浴後支援では気配りをしている。 | | |
| 40 | (15) | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | 8月～昼夕食は宅配業者によるバランスのとれた食事となっている。また、おやつについては季節感ある郷土料理が出せるようにしている。 | 入居者への嗜好調査は毎年実施し、本人にとって苦手な食材が献立に含まれている場合はホームで保管している食材で代替食を提供している。食材の形態も入居者に応じて適宜トロミやキザミ食とするなど、ホームで調整し提供している。献立によってはバイキング風にするなど楽しく食事ができるよう工夫している。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 41 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 〃 | | |
| 42 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 毎食後の口腔ケアの実施。 | | |
| 43 | (16) | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | 失敗があっても慌てず、落ち着いて声掛けができるように心がけている。 | 日中は職員が声掛け誘導し、トイレでの排泄を促し支援している。夜間帯は1時間毎に見回りを行っているが、入居者の睡眠を妨げないよう夜間の排泄介助の回数やタイミングは臨機応変に対応している。尿取りパット等家族が負担する用品類の適正使用については職員ミーティングで検討している。 | |
| 44 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | 便秘の場合水分不足のことが多いので水分補給が十分かどうか全職員確認しながら支援をしている。 | | |
| 45 | (17) | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている | 入浴など何かをする場合は常にタイミングが必要な利用者が多いので一人一人タイミングを計りながらの支援をしている。 | ホームではユニット毎に週3回を入浴日として設定し、入浴時は可能な限り湯船に浸かってもらうよう支援している。入浴を拒否する場合は清拭、または翌日にユニット間を跨いだ入浴も可能である。湯温は随時調整ができるタイプで、入居者毎に好みの温度で入浴が楽しめるよう支援している。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 46 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | 日中のレクリエーション参加により夜の眠りが安定することもあるので、参加の呼びかけをしている。 | | |
| 47 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 研修会において処方されている薬の意味や目的などについて学習し、服用後の確認、報告も努めている。 | | |
| 48 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | 一人一人の思いがあるので思いを尊重したうえで気分転換等声掛けができるようにしている。 | | |
| 49 | (18) | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | 気候に合わせて外出の計画をしているまた、家族からの外出申し出にも対応している。 | 職員は入居者とともに島内周囲へ30分程度ドライブしたり、ホーム敷地内の畑に芋を植え収穫時に芋掘り見学したりするなど、気分転換を兼ねた外出の機会を作っている。尚、現在はコロナ禍の影響により外出する回数は減少傾向である。 | |
| 50 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | 基本は家族管理となっているが、本人家族の要望に応えた支援をしている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|------------------------------------|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 51 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | 手紙により近況報告。(写真) また、電話対応もしている。 | | |
| 52 | (19) | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 清潔を保ち気持ち用空間づくりに心がけている。 | ホームは建物中央に事務室を配置したユニット間を自由に往来できる造りとなっている。これにより相互のコミュニケーションや助け合いが可能となり、入居者・職員双方にとって効率的な配置となっている。フロアやトイレ等は毎日次亜塩素酸水を使用した拭き掃除を行い清潔な空間である。壁一面には入居者のぬり絵や干支の作品が飾られ、訪問者の心を和ませている。 | |
| 53 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | 〃 | | |
| 54 | (20) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 〃 | 居室のベッド・筆筒・椅子はホーム備え付けであり、その他は入居者の使い慣れた布団類や馴染みの物を持ち込んでいる。職員は毎日の清掃と月1回のエアコンフィルター清掃を行い清潔保持に努めている。居室の入口には避難時の介助方法を色分けした紙製の花飾りを表示することで、緊急時に分かりやすいよう工夫している。 | |
| 55 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | 移動時の妨げにならないよう物品で導線をふさがないように注意している。 | | |

自己評価および外部評価結果

ユニット名 B

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|--------------------|-----|---|--|------|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| I. 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1 | (1) | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | ・事業所理念と職員研修、会議等において周知している。 | | |
| 2 | (2) | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | ・地域の行事に合わせた行事計画を立てて実施している。 | | |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | ・推進員会において施設状況の報告をしたり広報誌を作成し、地域にお知らせしている。 | | |
| 4 | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | ・情報の収集をし、活用、実践につなげられることは実践している。 | | |
| 5 | (4) | ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる | ・取り組んでいる。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|-----|---|---|------|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 6 | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | ・身体拘束についての理解を深めるため研修会を実施。 | | |
| 7 | | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | ・研修会の実施により、職員皆が共通の理解のもとに正しく対応できるよう努めている。 | | |
| 8 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | ・社外研修参加し、報告会を実施している。 | | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | ・施設入所時は説明の時間をとり納得していただいたうえで契約締結をしている。 | | |
| 10 | (6) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | ・玄関に意見箱を設置。また、施設訪問面会の折、時間をとり意見を聴くようにしている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------|-----|--|--|------|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 11 | (7) | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | 毎月のミーティング時に職員の意見を聴くようにしている。 | | |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | 資格取得のための支援をし、取得後は給与に反映している。 | | |
| 13 | | ○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | ・施設代表者や管理者は職員のリフレッシュのため、町内の球技大会への参加を支援している。 | | |
| 14 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | ・法人として、全体研修の及びレクレーションの計画により、交流している。 | | |
| II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | ・認知症である利用者の「思いを知る」ため、利用者とコミュニケーションをとる時間をできるだけ作るよう心掛けている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|-----|---|--|------|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | 家族と利用者の関係性を知ること、しっかりとアセスメントを心掛けている。 | | |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | ・本人及び家族にとって必要な支援を知る上においてゆっくと話を聞く場を設けるように努めている。 | | |
| 18 | | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | グループホーム本来の考えを忘れず利用者とともに暮らすという思いを持つようにしている。 | | |
| 19 | | ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | グループホームは利用者及び家族とともにあることを忘れないようにしている。 | | |
| 20 | (8) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | ・施設訪問がしやすい環境を作ることまた、住み慣れたご近所さんまでドライブをするなど支援している。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------------|-----|---|--|------|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 21 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | 利用者同士衝突がないように、職員が様子観察し、必要な時は間に入るようにしている。 | | |
| 22 | | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | 再入所可能であることを説明しながら対応している。 | | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 23 | (9) | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | アセスメントをして本人の思いを聞き取り支援をしている。 | | |
| 24 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | 〃 | | |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | 〃 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|--|------|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 26 | (10) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | ミーティングの中で職員間の意識確認をし、支援に反映させている。 | | |
| 27 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | モニタリングの中で課題を見つけ支援につなげている。 | | |
| 28 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | 本人の状態、家族の状況に合わせて対応するように心がけている。 | | |
| 29 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | 島の暮らし慣れ親しんでこられた方々であり、島の行事に関心もあられるので、できる形での参加をしている。 | | |
| 30 | (11) | ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 定期受診に支援はもちろん、体調異変時には相談をし、支持を受けながら支援をしている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|--|------|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 31 | | ○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 日々の状態観察記録を通し、異変時の早期受診につなげている。 | | |
| 32 | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている | 入院時は、病院へ状況説明をし、入院中にも病院へ連絡し、状態把握に努めている。 | | |
| 33 | (12) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | 家族の意向を重視しともに話し合い、できる限りの支援をしている。 | | |
| 34 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | 緊急時の対応マニュアルに沿って職員研修会において学び実践で生かせるように努めている。 | | |
| 35 | (13) | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている | 毎月避難訓練を実施。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------------|------|---|---|------|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 36 | (14) | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | 介護理念のもと実践している。 | | |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | 表情に気を付け、コミュニケーションをとるようにしている。 | | |
| 38 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 職員のための日課とならないように十分気をつけながら支援をするように心がけている。 | | |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | 特に、入浴後支援では気配りをしている。 | | |
| 40 | (15) | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | 8月～昼夕食は宅配業者によるバランスのとれた食事となっている。また、おやつについては季節感ある郷土料理が出せるようにしている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|---|------|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 41 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 〃 | | |
| 42 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 毎食後の口腔ケアの実施。 | | |
| 43 | (16) | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | 失敗があっても慌てず、落ち着いて声掛けができるように心がけている。 | | |
| 44 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | 便秘の場合水分不足のことが多いので水分補給が十分かどうか全職員確認しながら支援をしている。 | | |
| 45 | (17) | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている | 入浴など何かをする場合は常にタイミングが必要な利用者が多いので一人一人タイミングを計りながらの支援をしている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|---|------|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 46 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | 日中のレクリエーション参加により夜の眠りが安定することもあるので、参加の呼びかけをしている。 | | |
| 47 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 研修会において処方されている薬の意味や目的などについて学習し、服用後の確認、報告に努めている。 | | |
| 48 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | 一人一人の思いがあるので思いを尊重したうえで気分転換等声掛けができるようにしている。 | | |
| 49 | (18) | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | 気候に合わせて外出の計画をしているまた、家族からの外出申し出にも対応している。 | | |
| 50 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | 基本は家族管理となっているが、本人家族の要望に応えた支援をしている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|------------------------------------|------|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 51 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | 手紙により近況報告。(写真) また、電話対応もしている。 | | |
| 52 | (19) | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 清潔を保ち気持ち用空間づくりに心がけている。 | | |
| 53 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | 〃 | | |
| 54 | (20) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 〃 | | |
| 55 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | 移動時の妨げにならないよう物品で導線をふさがないように注意している。 | | |